

2008年3月期 中間決算説明会



株式会社 エヌアイディ

2007年11月19日

Contents

■ はじめに

- ・ 会社概要、NIDグループ

1. 2008年3月期中間期業績について
2. 2008年3月期通期業績予想
3. 2008年3月期下期の重点施策
4. 事業戦略

- 
- はじめに
 - ・ 会社概要、NIDグループ

会社概要

社 名	株式会社エヌアイデイ (英社名 : Nippon Information Development Co.,Ltd)	
本 店 営 業 所	新宿区西新宿7-6-4 TEL03-3365-2621	
設 立	1967年(昭和42年)5月	
資 本 金	6億5,335万円(平成19年3月末現在)	
事 業 内 容	システム開発、情報処理サービス	
社 員 数	909名(平成19年9月末現在)、(グループ全体:1,416名)	
発 行 済 株 式 数	4,369,830株 (平成18年10月 2分割実施) 株主数 : 528名 (平成19年9月末現在)	
沿 革	昭和42年 5月	資本金600万円で(株)京葉計算センターを設立
	昭和47年12月	(株)コンピュータ・マーケティングと合併 新商号を(株)日本情報開発とする
	昭和52年 4月	(株)アイ・イー 設立
	昭和60年 9月	(株)エヌアイデイ・アイエス 設立 (株)東北エヌアイディ 設立
	平成 6年10月	(株)エヌアイデイ に商号変更
	平成15年 1月	JASDAQ市場に上場
	平成17年10月	子会社社名変更(NID・IS、NID東北、NID・IE)



NIDグループ

	所在地	資本金	売上高 (2007年3月期)	社員 数	事業セグメント
(株)エヌアイデイ	東京都新宿区	6億53百万円	115億68百万円	909名	システム開発 情報処理サービス
連結子会社3社					
(株)NID・IS	千葉県船橋市	30百万円	27億88百万円	291名	システム開発 情報処理サービス
(株)NID東北	仙台市宮城野区	30百万円	7億90百万円	65名	システム開発
(株)NID・IE	東京都新宿区	10百万円	21億1百万円	151名	システム開発 情報処理サービス

(社員数: 2007年9月末現在)



NID・IE社



NID本社



NID・IS社

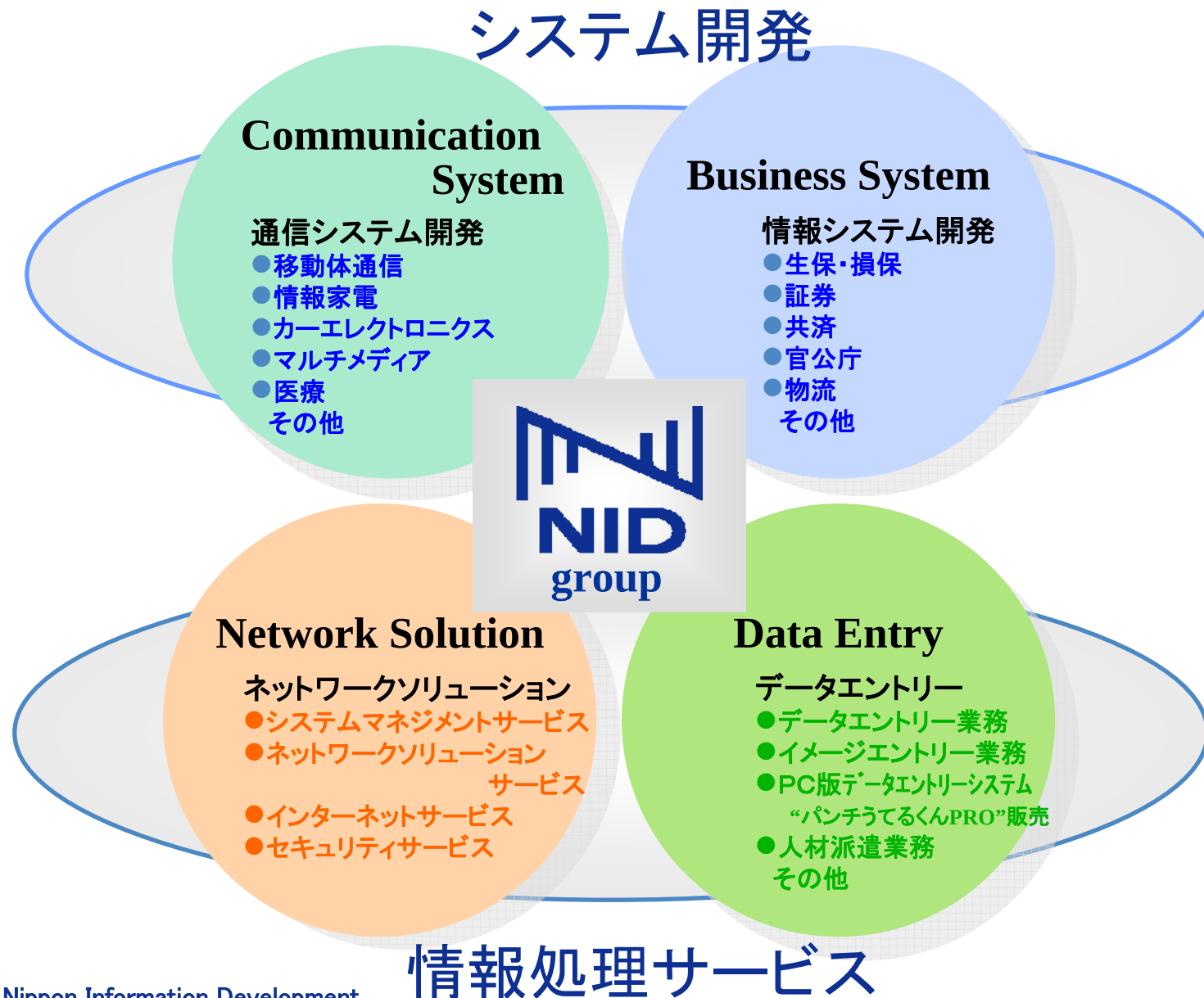


NID東北社



Nippon Information Development

NIDグループの4事業



1. 2008年3月期中間期業績について

決算ハイライト・トピックス

連結・単体共に最高益を達成

■ 通信システム開発事業

- モバイル&エンベデッドが売上・利益とも好調
- 不良プロジェクトが減少
ープロジェクト監視活動が奏功

■ 関連子会社の収益も好調

- NID・IE社
ー保険金等の支払状況に関する検証業務

■ トピックス

- 創立40周年を迎える
- 社団法人日本経済団体連合会(経団連)に入会(9月)

2008年3月期中間決算の概況(連結)

前期に引続き増収・増益を達成

(単位: 百万円)

	07/3月期 中間(実績)	08/3月期 中間(実績)	増減額	前年度 比
売上高	6,950	7,561	611	+8.8%
売上総利益	1,320	1,419	99	+7.5%
営業利益	503	556	53	+10.4%
経常利益	513	583	70	+13.8%
中間純利益	285	327	42	+14.9%
総資産額	9,218	10,065	847	+9.2%
株主資本	5,401	5,592	191	+3.5%
1株当り当期純利益	130.66円	76.44円	---	---
1株当り株主資本	2,473.84円	1,321.76円	---	---

対前年度比増の 主な内容

<売上高>

システム開発 + 約4億円
情報処理サービス
+ 約2億円

● 引合いが順調

<経常利益>

● 売上増に伴うもの
特に通信システム開発
事業と人材派遣事業の
増益が寄与

注) すべて百万円未満は切り捨てて表示しています。

注) 2006年10月1日付で株式分割(1対2)を実施しています。



Nippon Information Development

連結子会社の状況

(単位:百万円)

	当 社	連 結 子 会 社			(連結 消去等)	連 結
		NID・IS	NID東北	NID・IE		
売 上 高	5,842	1,466	402	1,145	(△1,294)	7,561
(内グループ売上)	(8)	(645)	(28)	(612)		
売上総利益	1,077	192	60	88	(2)	1,419
営業利益	390	75	39	47	(5)	556
経常利益	419	75	39	48	(2)	583
当期利益	230	44	23	28	(2)	327

貸借対照表・キャッシュフロー(連結)

(単位:百万円)

連結貸借対照表	'07/3期 中間(実績)	'08/3期 中間(実績)	前年度比	コメント
流動資産合計	6,873	7,395	+7.6%	+ 現金・売掛金増加
固定資産合計	2,407	2,669	+10.9%	+ 投資有価証券増加
資産合計	9,281	10,065	+8.4%	
負債合計	3,880	4,472	+15.3%	+ 退職給付引当金・未払金等増加
純資産合計	5,401	5,592	+3.5%	+ 利益剰余金増加、 △配当金支払・自己株式
負債純資産合計	9,281	10,065	+8.4%	

キャッシュ・フローの状況	'08/3期中間	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	597	税前利益566百万円、未払金増256百万円、 法人税支払355百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△342	投資有価証券取得401百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△322	配当金支払129百万円、自己株式取得による支出192百万円
現金及び現金同等物期末残高	4,149	決算短信4ページ及び12～14ページご参照

セグメント別売上・営業利益実績(連結)

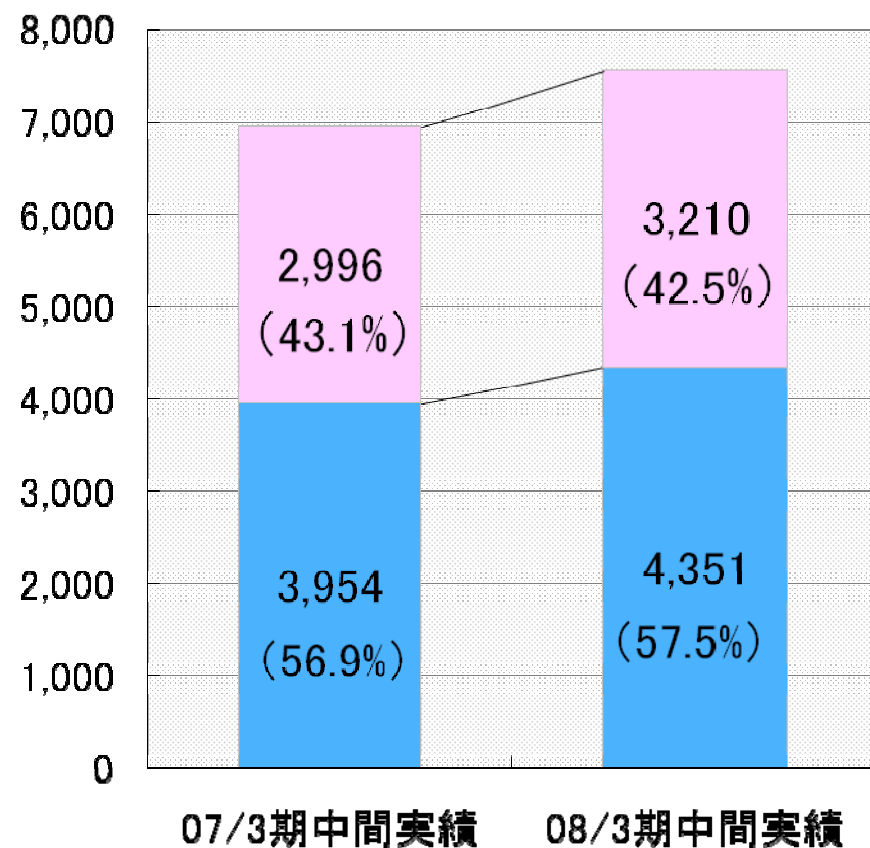
(単位:百万円)

		07/3月期 中間(実績)	構 成 比	08/3月期 中間(実績)	構 成 比	前年度比
売 上 高		6,950	100.0%	7,561	100.0%	+8.8%
内 訳	システム開発事業	3,954	56.9%	4,351	57.5%	+10.0%
	情報処理サービス事業	2,996	43.1%	3,210	42.5%	+7.1%
営業利益		503	100.0%	556	100.0%	+10.5%
内 訳	システム開発事業	341	67.8%	374	67.3%	+9.7%
	情報処理サービス事業	162	32.2%	182	32.7%	+12.3%

セグメント別売上高・営業利益実績推移

(百万円)

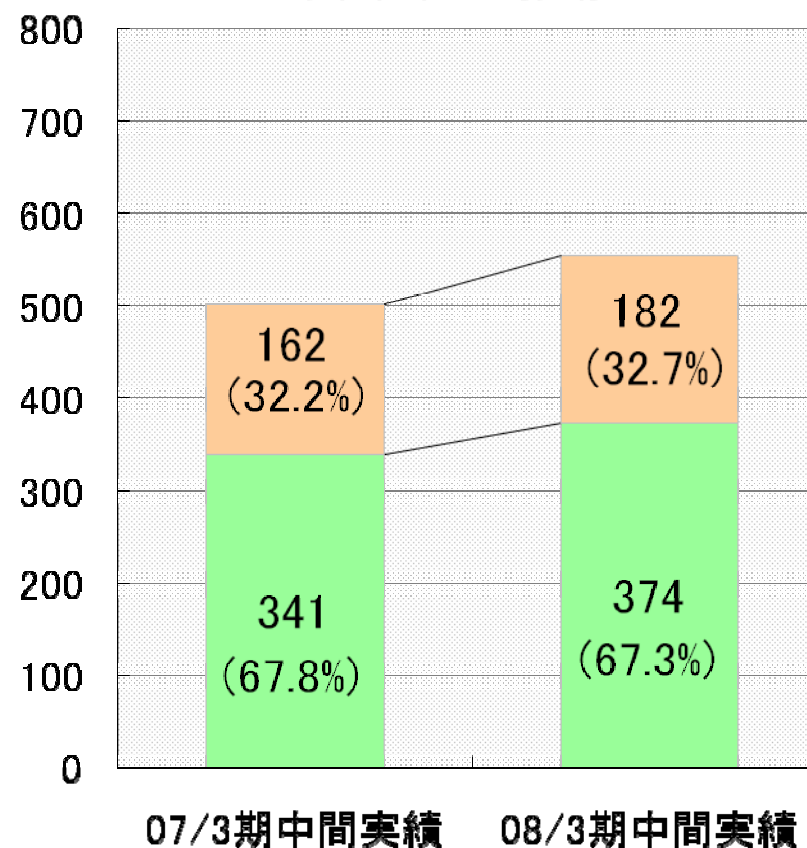
売上高推移



■ 情報処理サービス事業 ■ システム開発事業

(百万円)

営業利益推移



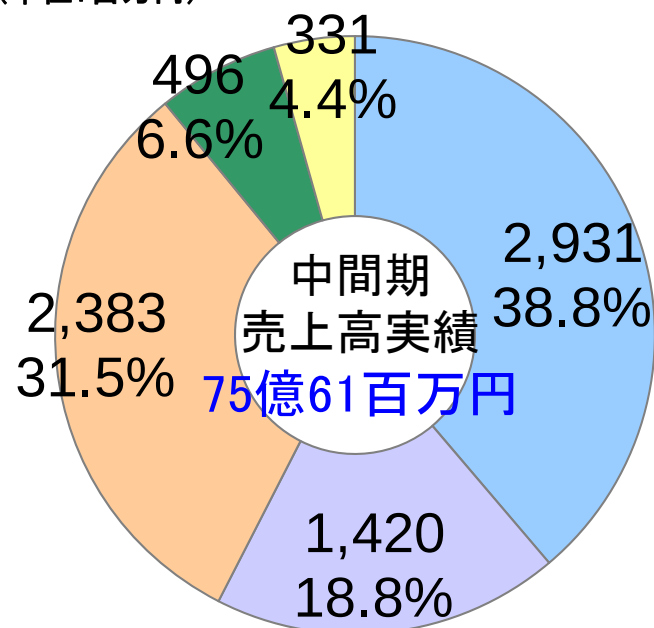
■ 情報処理サービス事業 ■ システム開発事業

システム開発事業の売上構成比60%超を目指し順調に伸張

サブセグメント別分野別売上高

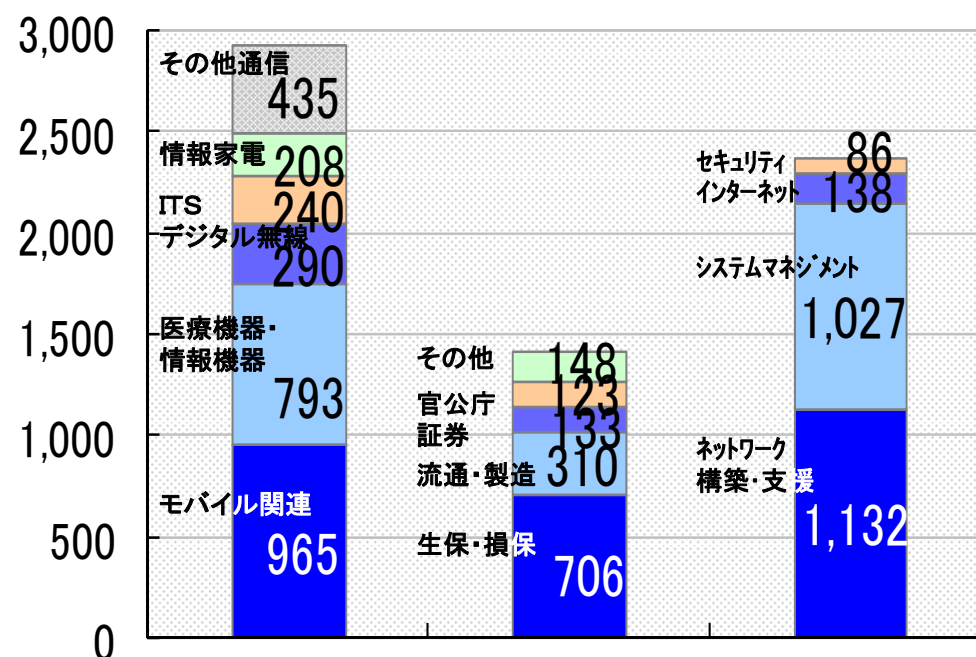
サブセグメント別売上高
2008年3月期中間実績

(単位:百万円)



- 通信システム開発
- 情報システム開発
- ネットワークソリューション
- データエントリー
- 人材派遣その他

事業別分野別売上高
2008年3月期中間実績



通信システム開発 情報システム開発 NS

状況	➡ +12.6%	➡ +5.1%	➡ +4.1%
----	----------	---------	---------

2. 2008年3月期通期連結業績予想

2008年3月期通期連結業績予想

(単位: 百万円)

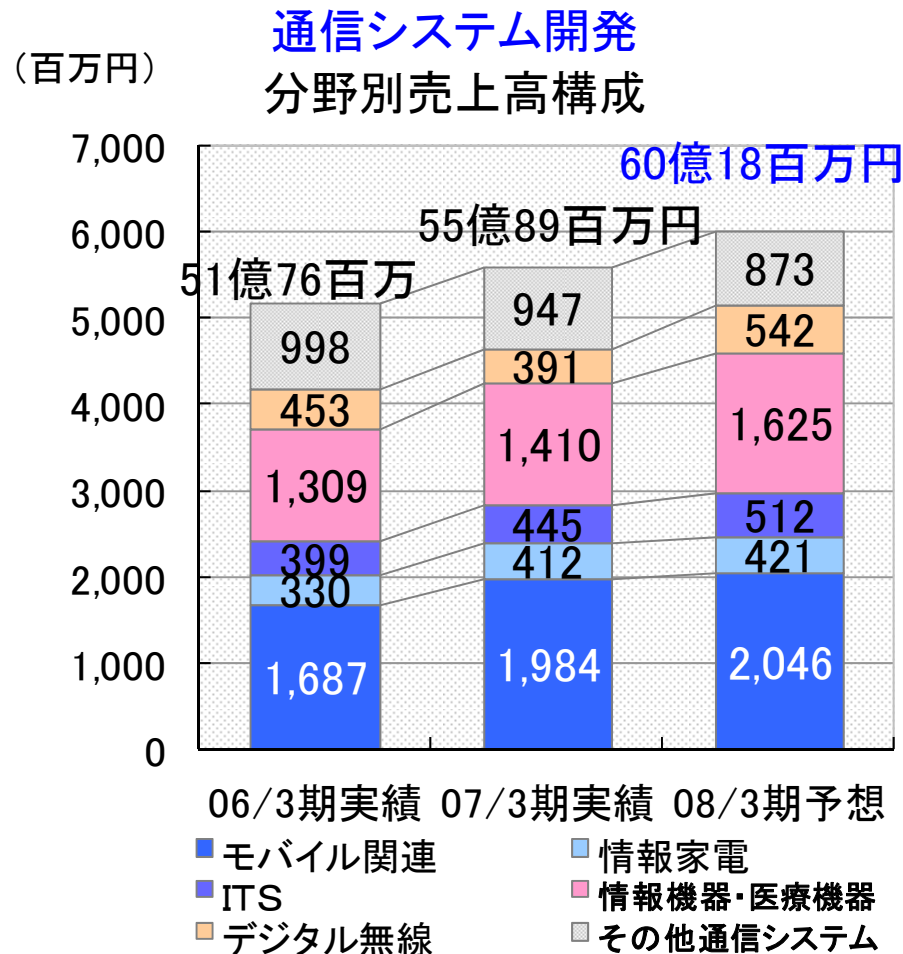
	07/3月期 (実績)	売上比	08/3月期 (予想)	売上比	増減額	前年度比
売上高	14,583	100.0%	15,200	100.0%	615	+4.2%
売上総利益	2,879	19.7%	3,015	19.8%	136	+4.7%
営業利益	1,208	8.3%	1,250	8.2%	36	+3.5%
経常利益	1,233	8.5%	1,270	8.4%	36	+3.0%
当期純利益	635	4.4%	720	4.7%	85	+13.4%
1株当り当期純利益	145.81円		166.77円		20.96円	+14.4%

セグメント別売上・営業利益予想(対前年)

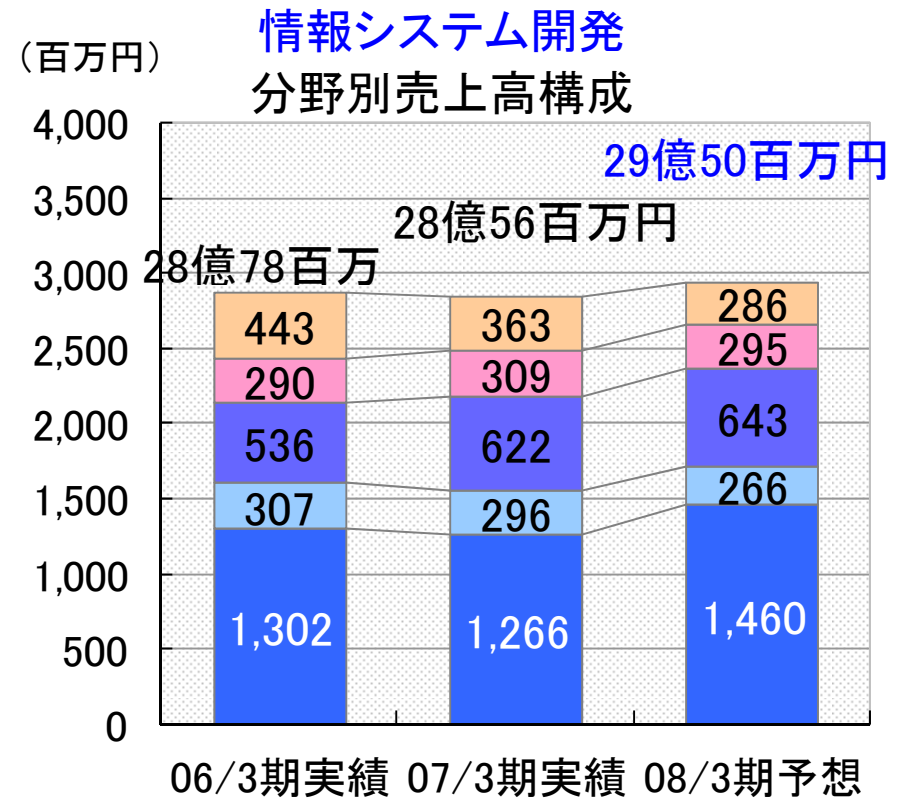
(単位: 百万円)

		07/3月期 (実績)	構 成 比	08/3月期 (予想)	構 成 比	前年度比
売 上 高		14,583	100.0%	15,200	100.0%	+4.2%
内 訳	システム開発事業	8,445	57.9%	8,968	59.0%	+6.2%
	情報処理サービス事業	6,138	42.1%	6,232	41.0%	+1.5%
営業利益		1,208	100.0%	1,250	100.0%	+3.5%
内 訳	システム開発事業	838	69.4%	880	70.4%	+5.0%
	情報処理サービス事業	370	30.6%	370	29.6%	+0.0%

システム開発事業;分野別売上高予想



デジタル無線、情報・医療機器、ITSが伸展(前年比+7.7%見込む)



生保・損保業務が伸展(前年比+3.3%見込む)

3. 2008年3月期下期の重点施策

重点施策①

■ 通信システム開発

- カーエレクトロニクス（プラットフォーム先行開発）
 - ・パワートレイン系、マルチメディア系
 - ・トップビューカメラECU開発、・カーナビツール開発
- 新幹線向けデジタル無線地上局・車上局開発
- 携帯電話及び携帯基地局開発
高速データ通信機能開発（HSUPA、その他）

*ECU: electronic control unit(電子制御ユニット)

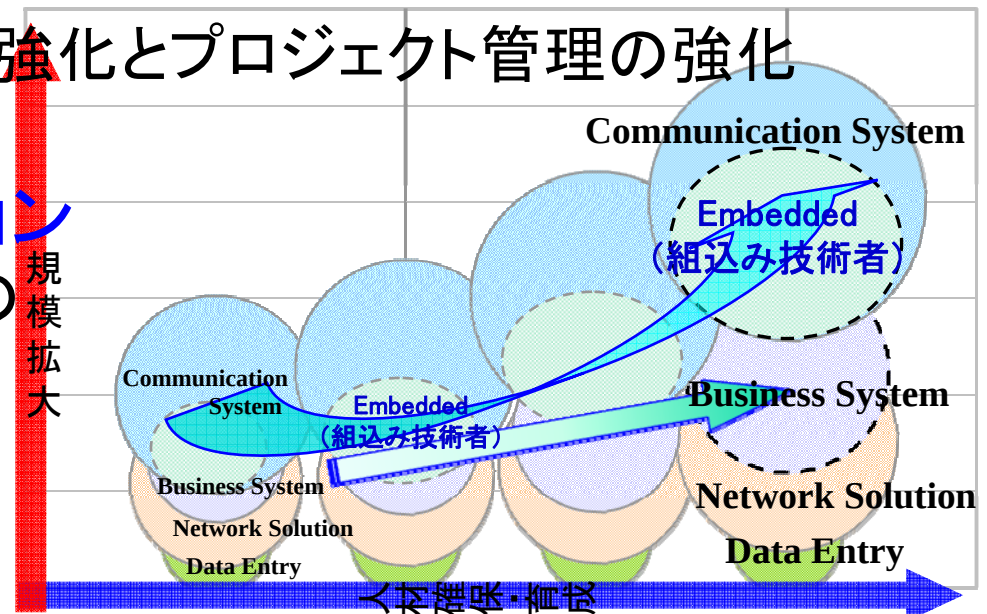
*HSUPA: High Speed Uplink Packet Access

■ 情報システム開発

- 生保・共済業務での体制強化とプロジェクト管理の強化
- 保険業務SEの育成

■ ネットワークソリューション

- ITアウトソーシング業務の受注拡大
- 基盤系SEの増強



重点施策②

■ 人材確保

- 採用活動の強化(学校訪問、会社説明会、インターンシップ)
'08/3期計画100名(内定98名)、'09/3期計画128名、**実績5校8名**

■ 技術者教育の徹底

- 各事業分野での専門技術者集団の形成
戦略技術者育成プログラム(組込み、通信制御等)実習
ETSS、ITSS、ITIL強化研修、生保・損保業務知識

■ パートナーの確保 -技術提携、資本提携

■ 内部体制の強化 -日本版SOX法対応

■ 製品プロダクトの拡充

RF 棚卸くん

<資産管理台帳・連携システム>

E-stas

<携帯端末自動評価システム>

MoPulse

<モバイルDBアクセスソリューション>

パンチうてるくんPRO

<パソコン版データエントリー・ソフト>

Soft Simulator™

<革新的マニュアル作成ツール>

PassLogic

<ワンタイムパスワード認証>

えりーとあい
e-Learning By NID・IS

<幼児向け知能教育e-ラーニング>

MIEL

※開発中

<特定保健指導の総合支援サービス>

4. 事業戦略

事業戦略①

エヌアイディは得意分野にフォーカスして
専門技術者集団を目指す。

⇒ ユーザーからの絶対的信頼を獲得

⇒ 継続した受注の確保

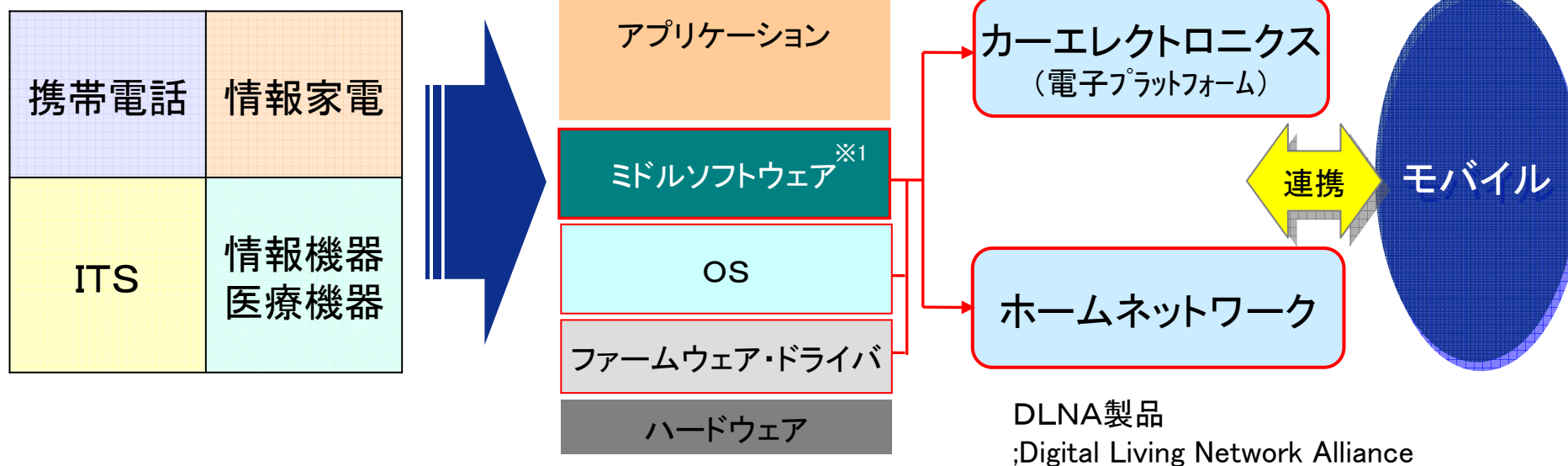
⇒ 安定成長

事業戦略②-1

■ 通信システム開発

● エンベデッド(組込み)技術者集団

エンベデッド(組込み)分野



※1 ミドルソフトウェア;基本ソフトウェアと応用ソフトウェアの間に位置するソフトウェアで、共通して使用する機能を提供する。

- 情報システム開発
 - 保険業務の専門SE集団

- 生命保険

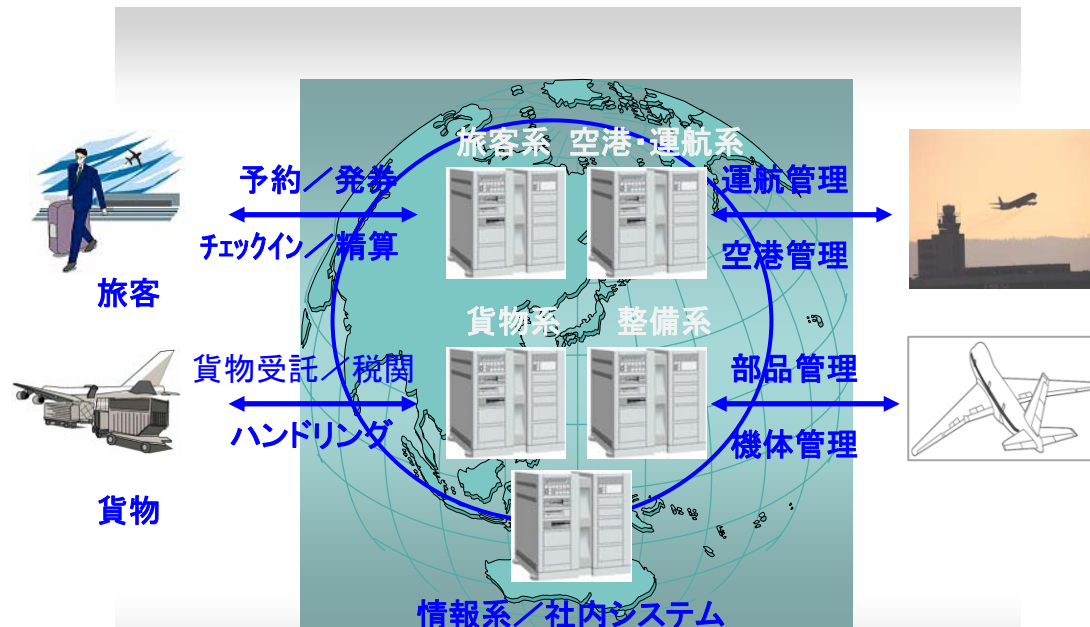
- 損害保険

- 共済

事業戦略②-3

■ ネットワークソリューション ● 基盤系SE集団

◆ ITアウトソーシング事例
航空旅客系、空港系、貨物系、整備系システム



ビジョン

得意技へのこだわり

高い専門性を追求する

品質へのこだわり

常に技術に磨きをかける

基本へのこだわり

事業に軌軸をもつ

技術力(企業価値) = 品質(顧客満足度)

専門店経営でユーザー価値を満足させる
ベスト・パートナーに！！

株主還元策

- 配当 各期の業績、将来の事業展開、配当性向等を勘案し、**安定した配当を継続**していきます。

第40期配当金 **30** 円
(普通配当25円、創立40周年記念配当5円)

- 株式分割
 - ・ 平成16年 8月(第38期) 3分割実施
 - ・ 平成18年10月(第40期) 2 分割実施

- 自社株買い
 - ・ 取得累計(平成19年9月12日まで)
138,658株(持ち株比率:3.1%)
 - ・ 取得金額 2億88百万円

目標とする経営指標

- 売上高経常利益率 10%
- 株主資本当期純利益率(ROE) 15%



<http://www.nid.co.jp>

-
- 添付資料
 - ・ NIDグループの技術力
 - ・ 用語

NIDグループの技術力

	主な事業分野	技術要素
■通信系 システム開発	モバイル	○組込みOS(μITRON、Linux、シンビアン、その他) ○開発技術要素 オブジェクト指向(C++、Java) ○モバイル 無線系;3Gプロトコル、HSUPA※、IP-ネットワーク他 AP系;TV電話、3Dアプリ、AVミドル、JAVAミドル他 ○ITS カーナビ、オーディオ、ECU、燃料電池制御他 ○情報家電 デジタルTV、DVD、TV会議、ホームサーバ、ゲーム機 ○業務無線 空港無線、列車無線、救急無線、他
	情報・医療機器	
	情報家電	
	ITS	
	デジタル無線その他	
■情報系 システム開発	生命保険・共済	○要素技術 オブジェクト指向(Java)、オープン系技術(J2EE、OSS) ○業務知識 ・個人保険、団体保険、共済、自動車保険、他 ・オンライントレード ・倉庫管理
	損害保険	
	証券	
	物流	
■ネットワーク ソリューション	システム運用	○要素技術 OS(Unix他),DB(Oracle他),N/W(TCP/IP他),セキュリティ(PKI他) ○構築技術 ・サーバ構築(OS,Web,ファイアーウォール他) ・ネットワーク構築(設計,ルーティング他) ○業務運用 ・ITIL※・業務知識(物流、建築、運輸、生損保他) ・エンジニアリングサポート(障害対応他)
	N/W・サーバ構築	
	セキュリティ	
	インターネット	

※ ITIL : IT Infrastructure Library イギリス政府が策定した、ITマネジメントに関する体系的なガイドライン。

※ HSUPA : High Speed Uplink Packet Access NTTドコモなどが採用している第3世代(3G)携帯電話方式「W-CDMA」のデータ通信を高速化した規格。3G方式の改良版であることから「3.5G」とも呼ばれ、従来の5倍以上の通信速度を実現する。

用語

携帯電話自動評価システム	評価指示(シナリオ)に従い、携帯電話のボタンを自動的に操作し、その結果データを自動収集、予め用意しておいた期待画像などと比較し、自動的に成否の判定を実現するもの。
プロトコルスタック	ネットワーク上で、ある機能を実現するために必要なプロトコル(通信手順)を選び、階層状に積み上げたソフトウェア群。
エンベデッド(Embedded)	デジタルTV、DVD(Digital Versatile Disk)、PDP(Plasma Display Panel)などの情報家電から携帯電話、携帯端末(PDA: Personal Digital Assistance)、車載システムなどに組み込むソフトウェアの総称。
情報家電	情報通信機能を組み込み、高機能化・ネットワーク化した家電製品のこと。デジタルTVなどのAV機器や、家庭用ゲーム機などをはじめ、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機といった白物家電も情報家電への進化が期待される。
ユビキタス(ubiquitous)	ユビキタスの語源はラテン語で、いたるところに存在する(遍在)という意味。インターネットなどの情報ネットワークに、いつでも、どこからでもアクセスできる環境を指し、ユビキタスが普及すると、場所にとられない働き方や娯楽が実現出来るようになる。「ユビキタス・コンピューティング」、「ユビキタス・ネットワーク社会」のようにも使われることもある。ユビキタス・コンピューティングは、メインフレーム(複数で一台を使用)、PC(一人一台)、に続く、一人が複数のコンピュータを使う第3世代を示したもので、マーク・ワイザー氏が提唱した。
組込みLinux	サーバOSとして注目されているLinuxですが、組込み機器におけるOSとしてもLinuxが急速に採用されてきている。他のOSに比べ、低い性能のコンピュータでも軽快に動作し、ネットワーク機能やセキュリティに優れている。
3GPP(3rd Generation Partnership Project)	第3世代(3G)移動体通信システムの標準化プロジェクト。また、同プロジェクトによる移動体通信システムの標準規格。
Bluetooth	Ericsson社、IBM社、Intel社、Nokia社、東芝の5社が中心となって提唱している携帯情報機器向けの無線通信技術。
WiMAX (IEEE802. 16a)	2003年1月にIEEE(米国電気電子学会)で承認された、固定無線通信の標準規格。IEEE802.16規格は10～66GHzの周波数帯を使用していたが、802.16a規格では2～11GHzを利用するよう改められている。通信速度や最大距離は変わらず、1台のアンテナで半径約50kmをカバーし、最大で70Mbpsの通信が可能。
デバイスドライバ(device driver)	周辺機器を動作させるためのソフトウェア。OSが周辺機器を制御するための橋渡しを行なう。
テレマティクス	通信(テレコミュニケーション)と情報処理(インフォマティクス)を組み合わせた造語で、自動車向けの次世代情報提供サービスをいう。主なテレマティクスサービスとしては、トヨタ【G-BOOK】、日産【カーウイングス】、ホンダ【インターナビ・プレミアムクラブ】などがある。
Symbian OS	エリクソン社、モトローラ社、ノキア社、松下電器産業などの携帯電話メーカーが出資する英シンビアン社が提唱している携帯端末向けのOS。
CMM(Capability Maturity Model)	ソフトウェアの開発能力を客観的に示す品質管理基準のこと。
ITS (Intelligent Transport System)	高度道路交通システム。最先端の情報通信技術を利用して、ナビゲーションシステムの高度化、将来の自動運転を目標とした安全運転の支援、有料道路でのノンストップ自動料金支払システム等により交通の安全や効率性の向上を実現。
NGN(next Generation Network)	電話や映像配信等多様なサービスを次世代通信インフラとしてIP網にて提供する次世代ネットワーク。
3. 9G	100Mbpsでのデータ伝送が可能な移動通信システム。Super3Gとも言われ、3. 5Gの先にある物を言う。